歯科衛生士ラダー【周術期等口腔機能管理（専門的口腔衛生処置）】

レベル		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
定義		専門職として自覚を持ち必要に応じて助言を得て業務を実践する	専門職の役割を理解し自立して業務を実践する	専門性を活かし対象者の個別性を考慮して業務を実践する	幅広い視野で予測的判断のもと業務を実践する	より複雑な状況下において業務を実践する
歯科衛生実践能力	レベル毎の目標	基本的な知識のもと必要に応じて助言を受け口腔の健康を管理する	自立して口腔の健康を管理する	対象者の個別性を考慮して口腔の健康を管理する	幅広い視野で予測的判断のもと口腔の健康を管理する	複雑な状況下において最良な口腔の健康を管理する
	実践例	□ 周術期等口腔機能管理の基本的な知識と手順を助言を得て理解できる □ 助言を受けながら患者の情報収集ができる □ 助言を受けながら患者の口腔内評価、ケア方法の立案、ケア用品の選択、実践ができる □ 歯科衛生士連絡書を助言を受けながら記載することができる	□ 周術期等口腔機能管理の基本的な知識と手順を理解できる □ 患者の病名、全身状態、服薬、検査データなど情報収集ができる □ 患者の口腔内評価、ケア方法の立案、ケア用品の選択、実践ができる □ 歯科衛生士連絡書を自立して記載することができる	□ 患者の病態にあわせた優先度を判断し口腔健康管理を実践できる □ 患者の個別性やニーズにあわせた情報収集ができる □ 患者・家族に対して個別性を考慮した指導、支援ができる □ 患者の個別性を考慮した歯科衛生士連絡書を記載し、より高度な病診連携を行うことができる	□ 専門性の高い医療を必要とする患者に対し予測性を持った口腔健康管理が実践できる □ BSC（ベストサポーティブケア）の患者・家族に対し予測性を持った指導、配慮、対応ができる □ 多職種と情報を共有し、連携を深めた口腔健康管理ができる	□ より複雑な状況下に合わせて、患者のQOLを高めることを意識した口腔健康管理が実践できる □ 患者の個別性を重視したACP（アドバンスケアプランニング）に即した対応、配慮、指導ができる □ 院内外の多職種と組織横断的に連携し、口腔健康管理が実践できる
組織的役割の遂行	レベル毎の目標	組織の一員としての役割を理解する	組織の一員としての役割を果たす	歯科衛生能力を活かして組織的役割を遂行する	多職種と連携して組織的役割を遂行する	組織の中で管理的役割を担う
	実践例	□ 助言を受けながらチームの一員としての歯科衛生士の役割を理解することができる □ 助言を受けながら患者のリスク管理を理解することができる	□ チームの一員として歯科衛生士の役割を果たすことができる □ 多職種連携におけるカンファレンスに参加する □ 基本的な患者のリスク管理を行うことができる	□ 多職種連携におけるカンファレンスに参加し、専門的な視点で情報提供することができる □ 口腔健康管理についてスタッフへの指導や助言を行いOJTを担当することができる □ 患者の個別性を考慮したリスク管理を行うことができる	□ 専門性を活かしてチームの一員として多職種と意見交換ができる □ 口腔健康管理について教育指導計画に基づきスタッフの教育・指導を担当することができる □ 多職種に口腔健康管理について助言、教育を行うことができる □ 患者の状態から起こり得るリスクを予測し対応できる	□ 専門性を活かして主体的に多職種と協働できる □ 口腔健康管理実践のためのシステムの構築、評価、修正を繰り返し行う □ 口腔健康管理の実践力を養う教育指導計画を作成し、達成度の評価・指導ができる □ 地域医療に携わる多職種に質の高い継続的な口腔健康管理実践のための教育、指導、育成ができる
教育・研究	レベル毎の目標	自己の歯科衛生士としての課題を見出す	自己課題に主体的に取り組む	自己のキャリアプランを考え自己課題に主体的に取り組む	自己のキャリア発達に取り組み役割モデルとなる	様々な活動を通じて歯科衛生士の質の向上に貢献する
	実践例	□ 対象疾患について理解を深める □ 助言を受けながら関連する研修会等に参加する	□ 対象疾患の治療過程および支援について理解を深める □ 関連する学会や研修会等に参加し、その内容を報告・伝達することができる	□ 研究活動に参加することができる □ 自身の専門性に関連した学会での発表や院内外での講師を担うことができる	□ 自発的に課題を見出しリーダーとして研究、スタッフへの教育を行う	□ 指導者として、研究活動の支援や教育ができる □ 幅広い分野において、教育的立場から講演ができる